

活字をはみだすもの 第16回

「狐めく人」に訴える —佐藤春夫と「日照雨事件」の裏側

こうの たつや
講師 河野龍也

◇開催 6月2日(土) 13:00~14:00

柴田錬三郎や原民喜を巻き込んだ「日照雨(そばえ)事件」。中心人物の女性編集者に自身も翻弄された佐藤春夫は、関係者に執拗な取材を繰り返して「佐藤さんの御下問」と恐れられました。その成果である小説『日照雨』(1953 講談社)は、「戦争未亡人」をめぐる問題作の一つで、ミステリーや芸術論の要素をあわせ持つ所に春夫らしさがあります。今回は、事件を主人公の子の立場から描いた同書収録の戯曲「少年詩人」の原稿をご紹介します。

【講師紹介】 実践女子大学教授、1976年生。佐藤春夫を中心に、美術と文学ジャンルの交流や作家の異文化理解に関心がある。編著に『佐藤春夫読本』(2015.10 勉誠出版)。



尾崎紅葉の原稿から見えるもの —「安知歇貌林」と「鐘楼守」

おおき しもん
講師 大木志門

◇開催 6月2日(土) 15:00~16:00

尾崎紅葉の未完の小説「安知歇貌林」(アンチフェブリン、明治30年)の原稿を中心に、紅葉の資料から見えてくる彼の文学の問題や、同時代の文学のあり方などについて考えます。門下生の徳田秋聲が手元に保管していた、晩年の紅葉によるユーゴーの翻訳『鐘楼守』の原稿(徳田秋聲記念館蔵)についても併せてお話をします。

【講師紹介】 山梨大学准教授、1974年生。徳田秋聲を中心に、明治から昭和戦前の自然主義文学・私小説を研究。著書に『徳田秋聲の昭和—更新される「自然主義」』(立教大学出版会、2016)など。



北原白秋と〈新民謡〉ブーム —北原白秋「新潟小唄」の草稿から

なかざわ わたる
講師 中澤 弥

◇開催 6月9日(土) 13:00~14:00

1920年代、ご当地ソングのさきがけとも言える〈新民謡〉ブームが巻き起こった。その中心人物の一人が北原白秋である。1931年には、『北原白秋地方民謡集』(博文館)も刊行されている。1929年に新潟新聞社(後、新潟日報)の文化事業の一環で作られた「新潟小唄」の草稿を手がかりとして、〈新民謡〉が作られる現場を垣間見ていきたい。

【講師紹介】 多摩大学教授、1959年生。1920年代から30年代にかけての文学と諸芸術との交流を研究テーマとする。



芥川龍之介、編集者への手紙 —「箕輪錬一宛書簡」を読む

しょうじたつや
講師 庄司達也

◇開催 6月9日(土) 15:00~16:00

この書簡(大正15年7月21日付)は、静養先の鶴沼/神奈川から出されたもので、最新の岩波書店版『芥川龍之介全集』第24巻(第2刷)に新出書簡として収録された1通です。箕輪錬一は雑誌『改造』の編集者、書簡中に登場する小澤碧童は龍之介が親しく交わった俳友のひとりです。『全集』の本文とも照らし合わせながら、書簡を読む愉しみを深めてゆきましょう。

【講師紹介】 横浜市立大学教授、1961年生。芥川龍之介の〈人〉と〈文学〉を主たる研究テーマとし、出版メディアと作家、読者の関係にも関心を持つ。また、作家が聴いた音楽を蓄音機とSPLレコードで再現するレコード・コンサートなども企画・開催している。



※参加費無料 参加ご希望の方は左記 QR コード、または別紙申込書をご覧ください。 (2018.4.26)

八木書店 古書出版部 〒101-0051 東京都千代田区神田神保町1-1 営業:10時~18時 定休:日祝
TEL 03-3291-8221 FAX 03-3291-8223 <https://catalogue.books-yagi.co.jp/> <mailto:kosyo@books-yagi.co.jp>